

ヤマセ地帯における高収益宮農類型

(農試 経営部)

1. 背景とねらい

ヤマセ地帯は一般的に耕地狭少で傾斜地が多く、また地帯特有のヤマセ気象や交通条件の悪さ等から一般に婦人・高齢者が担い手となった大豆、雑穀作主体の小規模畑作経営で低収益な農業構造であるため、これを打破し集約度が高く安定した農業経営を創出することが課題となっている。このため、57年度から実施されている「ヤマセ地域農業開発プロジェクト研究」による技術研究成果を踏まえ、野菜を基幹とする高収益宮農類型を検討し一定の成果を得たので指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

1) ヤマセ地帯の農業構造(表-1)

(1) 農家の74%は1.0ha以下の耕地規模で男子の就農割合が著しく低く(16才以上世帯員の18.5%、県全体33.5%)、また農産物販売なしの農家や麦、豆類、雑穀作主体の経営が全体の57%(県全体20%)を占め、1戸当り農業所得は47万円と県全体の56%に止まっている。

(2) 男子兼業就労者のうち出稼、日雇い等の不安定兼業就労者は60%を占める。また、漁業兼業農家率は15%で、磯漁業に年間30~40日出稼し、1戸当り30~40万円程度の所得であり、漁業兼業農家といえども農業部門の再編による所得向上対策が重要になっている。

2) 経営再編の方向と宮農類型

1) 経営再編の方向

① 土地生産性が高く、かつヤマセ気象に強い、又はそれを回避し得る作物、品目、作型で、また不安定兼業就労者の就労を図るため周年就労が可能となる組合せとすること。

② 婦人や高齢者中心の農業では比較的軽作業となる作物、品目中心とすること。

③ 土地生産性は10a当り15万円以上、労働報酬は1日8千円以上で不安定兼業労賃水準以上とし、かつ主要型農家では農業従事者1人年間250日以上就労が可能となる経営とすること。

2) 主要な作物、品目と高収益宮農類型(表-3.4)

技術研究成果及び農家意向調査等から今後の地域の主要品目として大豆、レタス、雨よけほうれんそう、しいたけが選定され、またそれら作物、品目をとり入れ、かつ(1)の再編方向を前提とした高収益宮農類型は、A露地野菜(大豆、レタス)+根みつば又はしいたけ、B雨よけほうれんそう+しいたけ、C養豚+大豆、D小規模雨よけほうれんそうの4種類が策定された。

3. 指導上の留意事項

1) ヤマセ地域全体として統一した作物、品目を選定し産地化を図ること。また予冷施設の利用は当面農協間の連携による施設利用を図り利用料の低減に努めること。

2) 地帯は一般に水が不足気味であることからハウス設置にあたってはハウスの団地化を図る等として、水の合理的な利用を図ること。

3) 野菜作経営では、堆肥不足が問題となるので畜産農家と連携をとるなど堆肥の確保に努めること。また小規模な土地基盤の中では合理的な輪作が成立しがたいことから農家間での土地の交換利用等を図り連作障害の回避に努めること。

4. 参考文献、資料：耐冷安定高収益農業経営類型の策定と定着展開条件の解明 57.3.農試

5 試験成績

表-1 ヤマセ地域の農業構造

項目		地域	ヤマセ地域	県
戸当り平均	耕地面積(a)		70	144
	就農者数(人)	男 女	0.35 1.01	0.61 1.06
	農業所得(万円)		470	833
耕地1.0ha以下農家率(%)			74.3	52.3
専従者なし及び専従者女子のみ農家率(%)			82.1	66.8
農産物販売なし農家率(%)			31.5	14.6
麦類穀単一経営及び小麦類穀販売農家(%)			25.4	5.1
男子兼業者のうち不特定兼業従事者(%)			64.2	42.3

1980 センチス

表-2 先進的農家の類型区分 (調査戸数 30戸)

区分	類型名	労働	耕地		山林規模	備考
			水田	畑		
主要型農家	A 露地野菜+ハウス野菜	1.9	60 ^a	270 ^a	250 ^a	
	B ハウス野菜+畜産+露地野菜	2.5	86	160	695	
	C 畜産+露地野菜	3.0	20 ^a 35	180 ^a 1265	298	
複業	D 小規模ハウス野菜	0.9	30	30	84	噂い高給豚

注) 労働力能力換算数、C類型の耕地上段養豚、下段酪農

表-3 技術研究及び農家意向からの経営類型別作物配置

	河泉経営類型				10a当り作物収益性				
	A	B	C	D	収量	所得	投下労働	畑所得	
大豆	◎		◎		3,000 ^{kg}	180 ^{万円}	10 ^日	18.2 ^{万円}	8-9月平均
レタス	◎		◎		2,500	125	13	9.6	7月 "
こぼろ	○	○	○		2,000	229	15	15.4	
根みつば	○				1,500	336	101	3.3	
ほういんげ	◎		◎		2,400	832	152	5.5	年4回転
アスパラガス	○		○		750	331	23	14.4	
山東菜	○		○		1,962	492	76	6.5	冬期2回転
生いたけ	◎	◎			2,040	917	188	4.9	6年当り
乾いたけ	◎	◎			550	1,411	149	9.5	20年当り

注: ◎ 主作目、○ 補充

表-4 高収益営農類型別(線型計画法による)

経営類型	主作作目の組合せ	労働力規模(人)	耕地面積(a)			作物・品目規模 (a、十本、頭)										農業所得(万円)	稼働労働日数(日)	100%労働所得(万円)		
			水田	普通畑	菜園草地	大豆(5.6月)	レタス(5.6月)	大豆(7月)	大豆(8月)	大豆(8.9月)	こぼろ	アスパラガス	みつば	山東菜	生いたけ				乾いたけ	水稲
A	レタス、大豆	2	50	230		87	18	69		43	13					50		415	459	9.0
	みつば	3	50	350		128	35	97		68	23					50		617	703	8.8
	大豆、いたけ	2		230			63	58	40	19	14				7	14		519	573	9.0
		3		350			94	88	60	29	20				11	22		778	883	8.8
	レタス、いたけ	2	50	240		101	97				15				7	50		397	536	7.4
		3	50	360		152	145				25				11	50		594	800	7.4
蚕、大豆、いたけ	3		100	蚕120			15				33			11	16	120	540	691	7.5	
B	ほういんげ	2	50	80						12	37	8	2	7	50		381	761	7.1	
	いたけ	3	50	130						21	57	13	5	11	50		569	506	7.5	
	ほういんげ、いたけ、豚	3	140	70	蚕80					47		11	11	4	140	5	519	789	7.2	
C	豚、大豆	2		180			53	33	29	4	26					20	508	422	12.0	
D	ほういんげ	1	30	24							20	4	4		30		147	165	8.9	